山目校舎　小学部わかばグループ

研究主題

集団学習における、人やものとの関わりを促す授業づくり

～音楽的な内容の集団学習「どれみタイム」をとおして～

1　主題設定の理由

本グループの児童は、重度重複学級に所属しており、半数以上が車椅子を使用している。生活全般にわたり支援を要する児童が多く、自己表現の方法も多様である。進んで人やものと関わることが難しい児童もみられる。そのため、人やものとの関わりを通じて、主体的な姿を引き出したり、新しいものやことへの興味関心を広げたりし、楽しみを見つけること、満足感や達成感を感じることなど、集団学習をきっかけとして、一人一人の生活の楽しさや学びの豊かさが増すような支援方法について深めたいと考えた。

１年次目は、副題を～わかば・中学部合同の集団学習をとおして～とし、わかば学級児童と山目校舎中学部生徒合同の集団学習を継続して実施し、異年齢の交流に取り組んだ。体育的な内容の自立活動を取り上げ、同題材に継続して取り組むことで、児童生徒同士の関わりを促し、主体的な姿を引き出すための支援方法のあり方を探った。２年次目は、本グループの児童が比較的好む音楽的な内容の集団学習を取り上げることで、楽しみながら自然と人やものを意識したり、工夫して関わろうとしたりできるのではないかと考え、集団学習「どれみタイム」に焦点を当て、研究を進めることとする。

意思表出の読み取りが難しい児童に対しては、日頃の観察と働きかけへの反応などを確認し、わずかな表情、ふるまい、変容に気付くことを大切にしながら進めていきたい。

2　推進計画

２年次目の研究推進計画（経過）について示す。

月　日	研究活動	内　　容
4 月 20 日	第１回全校研究会	前年度研究の確認と、今年度の進め方について
5 月 10 日	グループ研究会①	1年次目の取り組みの確認と、研究方針や内容の検討
5 月 17 日	グループ研究会②	「どれみタイム」のねらいの確認
6 月 20 日	グループ研究会③	実態共有と段階の選択、取り扱う題材検討のためのグループワーク
7 月 4 日	グループ研究会④	「どれみタイム」夏～秋 ver の検討
7 月 19 日	授業研究会参加	なのはな6年「日常生活の指導」 研究協議「帰りの活動・帰りの会における高学年児童のめざす姿」
8 月 29 日	学部研修会	「音楽療法がもたらす効果と指導の実際」
8 月 30 日	グループ研究会⑤	指導案検討
9 月 13 日	研究授業	自立活動「どれみタイム」　授業者:森川 陽子
9 月 15 日	授業研究会（なのはな合同）	研究協議「実態差の大きい集団の中で、もつ力を最大限に発揮できる働き掛けや授業の組み立て方」 「動きの少ない児童でも、その子らしさを出せるアプローチの方法」
10 月 25 日	授業研究会参加	なのはな1年「日常生活の指導」 研究協議「帰りの活動・帰りの会における低学年児童のめざす姿」
11 月 8 日	グループ研究会⑥	どれみタイム冬 ver.検討
12 月 21 日	授業研究会参加	あすなろ分教室「自立活動（あすなろのWA!）」 研究協議:「集団学習におけるICT活用」、「仲間を意識できる位置取りの工夫」
1 月 23 日	グループ研究会⑦	グループ研究のまとめ
2 月 20 日	第2回全校研究会	2年次研究のまとめ

3　わかば学級における、めざす「豊かな学び」の姿

・「やってみたい」と思う。興味を示す。顔を向ける。
・「もっとやりたい！」と思う。
・好きなこと、夢中になれることがあり、一定時間集中して取り組む。
・教材教具に関わろうとする。触ろうとする。やってみる。
・仲間や教師の様子を見る。まねる。仲間や教師からの働き掛けに、何らかの反応を示す。
・気持ちを伝えようとする。表現する（快不快を表情や手足の動きで表現する）。
・質問する。
・自分なりにやり方を工夫する。
・学んだことを、他の場面で（様々な学校生活の場面、家庭、個別学習・学級活動での取り組みを集団学習で）やろうとする。

4　1年次目の研究概要

わかば学級児童と山目校舎中学部生徒合同の集団学習「にこにこタイム（みんなでボッチャ！）」を月１回継続して取り組んだ。本グループの児童生徒における豊かな学びをめざし、ボッチャをとおして、異年齢の児童生徒の関わりに焦点を当て、豊かな学びをめざして取り組んだ。

９月と12月、２度研究授業を行い、９月の授業研究会で出された、「実態差が大きい中でも、みんなが満足感や達成感を感じられるボッチャのオリジナルルールのアイデア」をその後の授業に取り入れ、ルールに柔軟性をもたせ実践した。12月の授業研究会は、障がい種や研究テーマに共通点があるあすなろ分教室と合同で行い、「集団学習の中で、人との関わりをもてるゲームのアイデアと、関わりを促す場の設定」を協議の柱とし、本グループ・なのはな・あすなろ職員が一緒になってアイデアを出し合うことで、多角的な視点からの様々なアイデアが出て、共有することができた。

にこにこタイムで取り組んだボッチャでは、仲間を意識して関わる場面設定をし、継続することで、にこにこタイム以外の学校生活の様々な場面でも、児童生徒同士の主体的な関わりがみられた。

5　2年次目の研究実践

（１）研究方針

２年次目は、中学部生徒が卒業したため、わかば学級児童の集団学習に焦点を当て進めることとした。わかば学級の児童は、歌や楽器などの活動を好み、楽しめる児童が多い。歌に合わせて手拍子をしたり、リズミカルに踊ったりする児童、歌うことは難しくても、お気に入りの歌の動画を楽しんで観る児童、楽器の響きが好きな児童など、音楽の楽しみ方は様々だが、歌や楽器に触れることが好きな児童が多い。以上のことから、今年度は、音楽的な内容の集団学習である「どれみタイム」を題材とし、一人一人の実態把握をし、実践を進めることとした。

・めざす姿の確認
・児童の実態共有、目標設定
・どれみタイムで取り上げる楽曲、楽器の検討
・自立活動と他教科との関連の確認
・授業実践、授業研究会、授業改善

（２）自立活動と他教科等との関連を図る

わかば学級の集団学習には、体育的な要素を含む「わくわくタイム」、音楽的な要素を含む「どれみタイム」、生単・遊び的な要素を含む「なかよしタイム」があり、それぞれ週１回自立活動の中で設定し取り組んでいる。

自立活動は、教科学習の下支えとなっており、「自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・

能力を支える役割を担っている」と学習指導要領解説に明記されている。また、「各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければならない」と示されている。わかば２組は重複障害学級Ｉの教育課程で、国語、算数の教科学習に取り組んでいる。どれみタイムでは算数との関連を図り、『手をたたこ』の歌に合わせて数唱しながらその数だけ手をたたく歌や、『しかくさんかくまる』では、３つの形のサウンドシェイプや、形カードを使用し、マッチングに取り組んだ。『しかくさんかくまる』は清明祭のステージ発表でも、わかば２組の児童が取り組んだ内容である。

ただし、関連を図りながら進めることは重要であるが、教科に重きを置きすぎてしまい、自立活動の目標がかすんでしまわないようにすることに注意して進めた。児童の課題や目標に合わせた授業づくりが大前提にあり、生活に密接した、児童の生活を豊かにするための題材、目標になるようにすることが大切である。

（３）どれみタイムの流れの確認、取り上げる楽曲、楽器の検討

夏～秋時期に実施するどれみタイム（取り扱う内容が全て季節に関連するものでなくて良い）で取り扱う題材や使用する楽器についてグループワークをした。特別支援学校学習指導要領解説各教科等編の、小学部音楽科の段階選択や内容、目標を確認し、参考にしながら、アイデアを出し合った。また、導入とまとめについては児童の見通しや意欲、達成感につながるよう、流れを変えずに進めることとした。以下はどれみタイムの流れと、アイデアをまとめたものである。網掛けの曲は、アイデアを受けて、今年度のどれみタイムで実際に取り組んだ。

『ドレミのうた』は、毎回の授業の始まりに歌い、どれみタイムへの期待感や意欲につながるようにした。

どれみタイム案（夏～秋 ver.）

題材案 ※網掛けは取り組んだ題材	指導上の留意点（○児童の動き） 使用する楽器や道具	音楽科ポイント ①…１段階、②…２段階
1 はじめのあいさつ	○当番の児童が前に出る。	
2 『ドレミのうた』	○振り付けを確認し『ドレミのうた』を歌う。	
3 今日の学習の確認	○本時の学習内容について、話を聞く。	
4 うたおう（①音楽遊び、②歌唱） 『とんぼのめがね』 『きのこ』 『やけこやけ』 『まっかな秋』 『虫のこえ』 『もみじ』 『かもめの水兵さん』 『アイスクリーム』 『とんでったバナナ』 『バナナのおやこ』 『南の島のハメハメハ大王』 『うみ』 『スイカの名産地』	○好きなめがねを選び、かけながら歌う。 ○「ききききのこ」「のこのこ…」など繰り返す歌詞の一部分を楽しみながら。 ○教師と一緒に歌う。 ○繰り返しのフレーズ「まっかだな」を歌う。 ○鳴き声の繰り返しを楽しんで歌う。 ○バナナマラカスを鳴らす。言葉を楽しむ。 ○波の音を鳴らす。歌える児童はマイクを持って歌う。 ○歌いながらスイカのビーチボールを隣の友達へ手渡す。	①ねらい☞音や音楽に興味を示す、自ら関わろうとする。 ②ねらい☞一部分を歌ったり、抑揚をまねたり、体でリズムを取って表現する。 ②題材選びのポイント ★歌詞に繰り返しがある。 ★歌詞の「音」がリズムとして分かりやすい。 ★曲名に出てくる具体的な事物に気づく。 ★擬声語、擬態語繰り返しや抑揚の面白さのある言葉。 共通の歌唱教材　※各段階１曲以上選択して取り扱うこと。 『うみ』『かたつむり』『日のまる』『ひらいたひらいた』『かくれんぼ』『春がきた』『虫のこえ』『夕やけこやけ』
5 うたあそび（①音楽遊び、②身体表現） 『大きな栗のきの下で』 『まつぼっくり』 『どんぐりころころ』 『やきいもグーチーパー』 『げんこつ山のたぬきさん』 『くいしんぼうのごりら』 『くだものれっしゃ』 『やまごやいっけん』 『三ツ矢サイダー』 『バナナくんたいそう』 『子犬のマーチ』 『おはなし指さん』 『さかながはねて』	○振り付けをして、手遊びを楽しむ。 ○簡単な振り付けを楽しむ。 ○歌のフレーズに合わせて振付をする。 ○歌に合わせてじゃんけんをする。 ○歌に合わせて手遊びをする。 ○歌に合わせて果物を選び列車に乗る。 ○ストーリーがイメージできるようにイラストを提示する。 ○歌に合わせて手遊びをする。 ○歌に合わせて体を動かす。 ○歌いながら、手指を教師に触ってもらう or できる児童は自分で触る。	①ねらい☞音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとする。 ②ねらい☞師範をまねる、一緒に身体表現する。 ②覚えやすいリズムを、繰り返し動き、リズムの特徴を身体で受け止めて気づく。 ②「マーチ」「タンゴ」『そうさん』『うさぎのダンス』などそれぞれの曲にみられる特徴的なリズムや固有名詞から【ゆったり歩く】【リズミカルに跳ねる】などの動きの種類を想起する。
6 ならそう（①音楽遊び、②器楽） 「和楽器を使って民謡にふれよう」 『むしのこえ』 「山の音楽家」 『どんぐりころころ』 『たぬきのたいこ』 『村まつり』 『おおきなたいこ』	○虫の鳴き声に合わせて楽器を鳴らす。（トライアングル、鈴、ギロ、タンバリン、シンバル） ○楽器を選び、曲に合わせて鳴らす。 ○太鼓でリズム打ちをする。 ○和太鼓や笛、フィンガーシンバル、トライアングルなど、お祭りっぽい楽器を使う。 ○「大きなたいこ」で大きな音、「小さなたいこ」で小さな音と、強弱を意識して鳴らす。	①手足を使って楽器を鳴らしたり、ばちを使って音を出したりする。 ②ねらい☞打楽器を中心に、演奏をまねたり、友達と一緒に音を出して表現したりする。 ②１段階で取り上げた楽器+両手で鳴らす楽器（タンバリン、ウッドブロック、ギロ）、音階や和音を鳴らす（木琴、キーボード）。 ②合図に合わせて楽器を鳴らしたり、教師を模倣し強弱をつけたりする。
7 おんがくをつくろう（②音楽づくり） 『むしのこえ』（楽器演奏） 『肩たたき』 「大きな古時計」 『証城寺のたぬきばやし』 『とんぼのめがね』 『じゃんけんぽん』 『かえるのうた』 『こげよマイケル』 『いろいろなにいろ』 『くるくる音頭』 『やまびこごっこ』	○キーボード（メロディ）、楽器（虫のこえ） ○「タントンタントン」の歌詞に合わせてタンバリンなどを鳴らす。 ○「チクタク」に合わせて楽器を鳴らす ○お祭りにみたいに太鼓を鳴らして楽しむ。 ○動画を見ながら秋のトンボの様子を思い浮かべる。 ○「おなかがすいたら…」→「グーグーグー」、「かみのけのびたら」→「チョキチョキチョキ」など、呼びかけにこたえる。 ○繰り返しのカエルの鳴き声を歌う or 楽器で鳴らす（ニコちゃんハンマー、ギロ、鈴、ベルハーモニー）。 ○タイミング良く「ハレルヤ♪」 ○「教えて教えて○○色」の呼びかけに、自分で考えてこたえる or イラストカードや具体物を用意し、その選択肢から選ぶ。 ○呼びかけに模倣でこたえる。	②ねらい☞音を選んだりつなげたりして、音遊びをする。教師や友だちと簡単な音楽をつくる。 ②既製の楽器に拘らず、自分の体を叩いたり、音や床や壁を踏みしめたりして出る音なども良い。 ②Tが実際に動いて見本を見せる、作る長さを絵や図にして始まりと終わりを分かりやすくする。 ②実態に応じて、拍のないリズムに取り組んでみたり、わらべ歌、民謡などにとらわれず、長音階・短音階以外の音階（諸外国の様々な音階や全音音階）を取り入れたりする。 ②反復、呼びかけとこたえ、変化などの「音楽の仕組み」を用いながら、生活に身近で親しみのもてる音やフレーズ、楽器を扱ったり、絵やカードで視覚化して示したりする。 音のつなげ方の例 「呼びかけ」と「こたえ」 ★呼びかけに模倣でこたえる。 ★性格の異なった音やフレーズでこたえる。 ★短く合いの手を入れる。 ★１人が呼びかけ大勢がこたえる。
8 きこう（①音楽遊び、②鑑賞） 『小さい秋みつけた』 『ふるさと』 『夕やけこやけ』 『赤とんぼ』 『われは海の子』 『ハンガリー舞曲第５番』 『星に願いを』	○「だれかさんが」のところを、児童の名前に変えて葉っぱなど秋を象徴するものを持ってもらったり置いたりする。 ○映像を観ながら曲を聴く。 ○夕焼けの風景を観ながら曲を聴く。 ○赤とんぼの映像を観ながら聴く。 ○映像を観ながら聴く。 ○割いた新聞（または新聞を破きながら）曲に合わせてかける。 ○星空の映像＆スヌーズレンの光とともにリラックスしながら聴く。	①ねらい☞自分なりの楽しさを見つける資質・能力を育てていく。 ①受け止めやすく分かりやすい音や音楽を使用する。 ①児童と音源の距離に配慮し、音源を見えやすい位置に置く。 ②ねらい☞感じたことを体で表現する。 ②身近な生活の音を聴く中で、好みの音色やフレーズを見つける。 ②音楽に合わせて体を動かしあったり、感じたことを伝えあったり、特徴的な部分を取り出して聴いたりする。
9 振り返り	○スクリーンタッチで振り返り。	

【図1:どれみタイム題材案(夏～秋 ver.)】

振り返りでは、取り組んだ楽曲のイラストと文字をスクリーンに表示し、画面にタッチするとその曲が流れるようにすることで、活動内容を思い出したり、進んで振り返ったりできるようにした。

（４）研究授業　※指導案は、指導案フォルダ参照

研究授業　9月13日(水)3校時　自立活動　どれみタイム「季節の歌に親しもう」　授業者:森川陽子他

＊取り上げた題材について

・『バナナのおやこ』(歌唱)…「パパバナナ」、「ママバナナ」など、繰り返しで響きが楽しい言葉が使われている。「♪バナナのパパは？」⇒「♪パパバナナ」のように「呼びかけ」と「こたえ」があり、教師とのやり取りを楽しめる。
・『てをつなごう』(歌遊び)…一つの輪(スカーフを結んでつなげたもの)を友達や教師と一緒に持つことで、一体感を感じられる。「♫ぽんぽんぽん」でジャンプ、「♫ひらひらひら」で輪を揺らすなど、曲に合わせて身体を動かすことができる。
・『むらまつり』(器楽)…和太鼓やあたり鉦など、和楽器を、曲に合わせてリズム打ちする。
・『アイアイ』(音楽づくり)…「呼びかけ」と「こたえ」。「♪アイアイ」の呼びかけに模倣でこたえる。母音だけで構成されている言葉なので発音しやすく、友達や教師とのやりとりも楽しめる。
・『どんな色がすき』(鑑賞)…様々な色の中から好きな色を選択することで選択肢の中から選ぶ機会、歌に合わせて発表する場を設けることで、友だちのことを知ったり、自分のことを伝えたりすることができる。

＊内容のまとまり(単元)

自立活動　3人間関係の形成　(4)集団への参加の基礎に関すること
自立活動　4環境の把握　(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること
小学部　音楽　1段階　A表現　ア音楽遊び(ア)　B鑑賞　ア音楽遊び(ア)
小学部　音楽　2段階　A表現　ア歌唱(ア)　イ器楽(ア)

＊ねらい(本時)

・『むらまつり』では、教師や友達の演奏を聴きながら、一緒に演奏することができる。【知・技】
・『バナナのおやこ』では、音や音楽を聴いて、歌いたいという気持ちを自分なりに表現しようとする【思・判・表】
・自分から人やものと関わり、楽しもうとしている。【主】

＊本時のねらいの、児童の3観点の目標、手立て(抜粋)

児童	目標			手立て
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A(1年)	スティックを握ることを受け入れ、教師と一緒にサウンドシェイプを鳴らすことができる。	耳を傾けて音楽を聴いたり、教師と一緒にバナナのマラカスを鳴らしたりしようとする。	『てをつなごう』では、教師の支援を受け入れ、スカーフを上下左右に振ろうとしている。	・目の前でサウンドシェイプを提示しながら音を聴かせ、一緒に鳴らすことを確認する。 ・目の前でバナナマラカスを提示し、一緒にマラカス持って振る。 ・手元にスカーフを置き、指先を動かして布に触れようとする動きを待つ。
B(2年)	T1の範奏の太鼓のリズムに合わせて、和太鼓をたたくことができる。	T1の呼びかけに合わせて、「♪パパバナナ」「♪ママバナナ」などとこたえようとする。	『どんな色がすき』では、好きな色のカードを選び、振ったり上げたりして曲を楽しもうとしている。	・児童の近くで、教師が拍手や言葉でリズムをとる。 ・発声を促すためにマイクを向ける。 ・曲が始まる前に、教師と何色を選んだか確認し、自分の色を意識させる。
C(4年)	T1の範奏の太鼓のリズムを意識しながら、鳴子を鳴らすことができる。	・音楽に合わせて声を出したり、バナナのマラカスを鳴らしたりしようとする。	・『どんな色がすき』では、自分の好きな色のカードを持ち、曲に合わせてカードを動かそうとしている。	・教師も一緒に手でリズムをとり、リズムを意識できるようにする。 ・マイクを向けることで、声を出すことを意識できるようにする。 ・一緒に歌い、楽しい雰囲気づくりをする。 ・机に色のカードを並べ、好きな色を選べるようにする。 ・前でT1が色のカードを持ち師範を見せる。
D(5年)	自分で指を動かし、木の実マラカスを鳴らすことができる。	顔を上げて曲を聴いたり、ペープサートのイラストを見たりしようとする。	『どんな色がすき』では、自分の好きな色のカードを選び、曲を楽しもうとしている。	・手が伸びないときは、手に触れたり、一緒に楽器を鳴らしたりして促す。 ・曲やイラストに興味がもてるような声掛けを行う。 ・表情の変化や手足の動きに注目しながら、選びたいカードを見極める。

＊児童の様子　　よくできた◎　できた○　もうすこし△

児童	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
A(1年)	教師と一緒にサウンドシェイプやスティックを握って鳴らすことができた。	○	リズムが速くなると笑顔がみられ、短時間ではあるが、一人でバナナマラカスを握った。教師と一緒にバナナマラカスを	○	スカーフを手元に置いたが、指先を動かして自らスカーフに触れることはなかった。脱力も強かったが、教師と一緒に	△

			鳴らすことができた。		スカーフを上下左右に振ることは受け入れた。	
B(2年)	「♪むらのちんじゅの～」のゆっくりとしたリズムのときは、T1の範奏の太鼓に合わせて、和太鼓をたたくことができた。「♪ドンドンヒャララ」の速いリズムのときは、範奏とずれることはあったが、合わせてたたこうとしていた。	○	T1からの「♪バナナのママは」や「♪バナナのこどもは」の呼びかけを受け、マイクを向けられると「♪ママバナナ」、「♪コバナナ」とこたえることができた。	◎	自分が好きな色をじっくり考えて選び、選んだ色が呼ばれるとカードを大きく上げていた。曲を聴きながら、自分のカードを左右に振って楽しんでいた。	◎
C(4年)	教師の掛け声や叩くタイミングをみて、鳴子を鳴らしていた。同じリズムを繰り返すことによって、リズムを意識することができていた。	◎	マイクを向けられると、目をそらし声が出なかったが、他の児童が声を出しているのを聞いて、少し声を出すことがあった。バナナのマラカスをしっかりと持ち、音楽に合わせて鳴らすことができた。	○	自分の選んだ色のときに大きい声を出しながら、持っているカードを上げていた。時々、持っているカードを持ち替えながら、曲に合わせて両手を動かしていた。	○
D(5年)	楽器を持ち、練習が始まると目を閉じ寝てしまった。声掛けをしたり、身体に触れたりしたが、起きなかった。	△	顔を上げて曲を聴く場面があった。また、顔が下がっていてもマイクの方に視線を向けることがあった。	○	表情や手の動きで好きな色のカードを選ぶことができた。曲を聴くと足を動かしたり、笑顔をみせたりして楽しんでいた。	◎

（５）授業研究会

今年度も、昨年度同様なのはなグループと合同で研究会を実施したことで、幅広い視点から多くの意見やアイデアを共有することにつながった。研究会の内容を以下に記す。

<table>
<tr><td colspan="4">授業研究会　9月15日(金)　14:30～15:45　音楽視聴覚室</td></tr>
<tr><td colspan="4">＊授業者から
・普段から、歌や楽器の活動に表情良く取り組む児童が多い。
・リズム打ちに取り組んでもらいたい児童と、楽器に触れることを受け入れ、教師と一緒に鳴らすことを目標にする児童がおり、実態差がある中でも、それぞれの目標を達成できるためにはどのような題材を取り上げれば良いのか、悩みながら授業を組み立てた。
・季節を感じられたり、児童同士が関わり合えたりする題材を取り入れた。
・「ことばのやりとり」や「曲に合わせてジャンプ」など、他の教科的な要素と関連付けることで、楽しんで取り組めるようにした。
・飽きてしまうことのないよう、1曲にあまり時間をかけずに進めていったが、慌ただしい感じになってしまった。</td></tr>
<tr><td colspan="4">＊グループ協議(2グループに分かれ、協議の柱について意見、アイデアを出し合った。)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">協議の柱①</td><td rowspan="2">実態差が大きい集団の中で、それぞれのもつ力を最大限に発揮できる働き掛けや授業の組み立て方について</td><td>グループ①</td><td>グループ②</td></tr>
<tr><td>・実態に合わせ、歌担当、伴奏担当を分ける。
・発声が難しい児童は、スイッチや電子機器を利用する。
・段階が高い児童に合わせて題材を選ぶ。段階の低い児童に合わせると、曲が幼稚になってしまうので、高い児童に合わせて中間を狙っていくのが良いのではないか。
・『手をつなごう』では、つかむのが得意な児童を間に入れるなど、配置の工夫をすると良いのではないか。
・曲数について…多いと慌ただしい部分はあるが、楽しめる。⇒授業の目標に合わせる。
・『村まつり』…リズム打ちが難しい児童は、音を鳴らすのを目標にすれば良い。</td><td>・働きかけ…リズム打ちグループ、自由演奏グループに分かれて練習する時間を設定し、最後に合わせる。または、グループ毎の発表の場を設け、お互いに聞く活動を入れる。
・なのはなとわかばが一緒に活動する時間があっても良い。
・1小節ずつグループに分かれて取り組む。
♪カエルの歌が～(音階グループ)
♪ケロケロケロケロ～(自由演奏)
・曲数について…何回も繰り返す良さもあるが、色々な曲に触れるという良さもある。実態にあっているのではないか。(長いと飽きてしまう児童もいる)</td></tr>
</table>

協議の柱②	動きの少ない児童でも、その子らしさを出しやすいアプローチの方法	・教師の観察力が大事。（目の動き、表情などをしっかりと観察し、そこを評価することで、児童が楽しみ、満足感を感じられるのではないか） ・手だけではなく、足など動ける部位を使う。（太鼓を、足を動かして叩く、巻き鈴を足に巻く） ・「つかむ」ができる児童は、楽器を教師が揺らすことで、参加できる。 ・リトミックを好む児童が多い⇒動きのある活動を多く取り入れる。	・合唱で、歌える児童は歌う。発声できる児童は声出しでOK。難しい児童は、花の歌なら花を貼る等、それぞれに合わせたアプローチをする。 ・聞いて、歌に合わせてiPadに表示したイラストを押す、または画面をスクリーンに映す。（iPadの画面にパパバナナ、ママバナナ、コバナナのイラストを映し、それを選んで押すと、画面が電子黒板にも表示される⇒選んだのがみんなも分かる） ・iPadのアプリの楽器も良い（少しの動きで音が出る）。 ・令和っぽい曲を取り入れても良いかも。 ・「オタマトーン」握ると音が鳴る楽器。
その他	・児童のオリジナルリズムでやる。（CDだと合わせるのが難しい児童がいるので、できれば先生が弾けると良い） ・振り返りでは、画面をタッチすると、選んだメロディーが流れて分かりやすく、わかばのみんなが楽しめる雰囲気だった。なのはなでもまねしたい。押すことを楽しんで終わってしまわないよう、「私の好きなのはこれです」とタッチして伝えるのを目標にする児童と、押した後に言葉で振り返ることを目標にする児童と、実態に合わせて振り返ると良いのではないか。		

＊助言（安久都副校長）

指導案が緻密に作られており、細部にまで計画されていた。

児童同士のやり取りがある曲だったり、一人一人が好きな色を発表したりするなど活躍できる場面が設定されるよう、題材が取り上げられていた。また、それぞれの目標に合う題材が取り上げられていた。一人一人がもっている力を十分に発揮できている授業だった。

前回の授業研究会（7月なのはなグループ）でも、私たちの仕事は、生きる力を育む仕事だと話した。どうやって主体的・対話的で深い学びを実現するか。評価する際は、主体的に学習に取り組む態度、いわゆる「主体的に学ぶ」がポイントになっている。指導案には「自分から」「自分で」「進んで」と主体的な部分を目標にしている記載があった。協議の柱になっている、「もつ力を最大限に発揮でき、達成感や満足感をもって楽しく学習に取り組む」姿も主体的な姿であると言える。このような姿をみんなでめざしていけるとよい。また、研究主題の「豊かな学び」はどういう姿なのか？再度確認し、グループ内で共通理解を図りながら研究を進めていくと良い。

（６）授業研究会や、研究授業アンケートで出た、どれみタイム題材案

協議で出たアイデアや、アンケートに記載されていた題材案を以下にまとめた。網掛けの曲『ジングルベル』（12月）、『ゆき』（１月）、『ゆきだるまのチャチャチャ』（２月）、『ひっつきもっつき』（２月）はアイデアを受け、実際にどれみタイムで取り上げ実施した（括弧内は実施月）。スカーフに鈴を付けてみんなで曲に合わせて振って鈴の音を鳴らしたり、「♪チャチャチャ」のフレーズに合わせて歌ったり楽器を鳴らしたりするなどのアイデアを取り入れた授業実践を行った。

冬にぴったりの曲	冬を感じる音の楽器	擬声語や擬音語、繰り返しや抑揚の面白さがある曲	友達と一緒に身体を動かしたり、触れ合ったりできる曲
・『ゆきのこぼうず』（パネルシアター） ・『ジングルベル』 ・『ゆき』 ・『おしょうがつ』 ・『北風小僧の寒太郎』 ・『コンコンクシャンのうた』 ・『ゆきだるまのチャチャチャ』 	・鈴、ツリーチャイム（クリスマス） ・トーンチャイム ・ハンドベル ・ピアノ ・握っていても音が鳴る鉄の球。 ・100円ショップに売っている、雪の感触と音が出るスライムボール 	・『きのこ』 ・『むしのこえ』 ・『どんぐりころころ』 ・『ジングルベル』 ・『ドコノコキノコ』 ・『きらきらぼし』 ・『あわてんぼうのサンタクロース』 ・『まっかなあき』 ・『あくびのうた』 ・『冬のうた』（小の教科書に掲載） ・『犬のおまわりさん』 ・『おもちゃのチャチャチャ』 ・『うたえバンバン』 ・『オノマトペのうた』	・『グーチョキパー体操』 ・『バスにのって』 ・リトミックやわらべ歌の動きをアレンジして行う。 ・流行の曲（『ジャンボリミッキー』、『ツバメ』など）に簡単な振り付けをした、リズム体操やダンスなど。 ・『ひっつきもっつき』ケロポンズの手遊び歌も、触れ合い系けっこうある。 ・『ムギュムギュ』 ・『ラララぞうきん』

（７）学部研修会

研修内容「音楽療法がもたらす効果と、子どもたちへの実践」
講師：音楽療法士　中嶋瞳氏
日時：令和５年８月２９日（火）
場所：音楽視聴覚室

ＰＴＡ親子行事と抱き合わせで行った。親子行事では、児童と保護者が、中嶋先生の生の音楽に触れ、様々な楽器を使い、保護者と児童が触れ合い、楽しみながら音楽療法を体験した。研修会では、なのはなグループ、あすなろ分教室と合同で実施した。感染症予防のため、あすなろ分教室とはTeamsでつなぎ、リモートで実施した。音楽療法の定義や効果、児童と音楽に取り組む際のポイント、おすすめの楽器、音楽とセルフケアなど、多角的な観点からお話をいただいた。身の周りにあるおすすめの楽器のアイデアと、質問への回答を一部紹介する。

～身の周りには楽器がたくさん～

✱サランラップの芯（ビニールテープを巻いてカラフルにし、両手に持ち叩いて音を出す。）

✱南部風鈴（風鈴をうちわで仰いで音を出す。風鈴は強く仰ぎすぎても音が鳴らず、「優しく」仰ぐ心地良い風が必要。風鈴はきれいな響く音色で、「優しく」を伝えるのに良い。）

Q. 自発的な動きが少ない児童でも、動きを感じられたり、少ない、小さな動きでも音が鳴る楽器はありますか？

A.　ツリーチャイム、レインスティック、オーシャンドラムなど。指先で押すことが可能なら、ミュージックベルのデスクタイプも良い。

Q. 実態差の大きい集団の中で、指導する際のポイントはありますか？（一つの曲を演奏する際、できる児童はリズムや音階、タイミングも意識して取り組みたいが、支援が必要な児童については、リズムなど関係なく自由に取り組むべきか、教師が手を取り、リズムやタイミングを計りながら取り組むべきなのか…）

A.　教師が手を取りながら演奏するのは悪くないと思う。

自由に取り組む場合、支援が必要な児童が自由に演奏した際に、自立できている児童、教師含め、自由に演奏された音を不快にならないか？ストレスにならないか？は大事。不快にならないよう、音が目立たないような楽器にするのも良い。

発表の場を設けるのであれば、聴き手側の聴きごたえも考慮する必要がある。曲がハ長調のものであれば、「ド・ミ・ソ」限定で音階楽器を好きなタイミングで鳴らしたり、叩いたり、押したり、音量に考慮しながら使用しても悪くないのではないか。

Q.　知的能力に幅のある集団で、音楽療法をするときに、どのレベルに合わせて活動内容を設定していますか？

A.　全員が主役となれる活動を取り入れるようにしており、例えばAの活動が簡単すぎる児童もいるし、難しすぎる児童もいる。Bの活動はできなかったけど、Aはできたね、という児童がいても良い。ただ、全員にセッションのどこかで満足度を与えたいと考えている。

個人的には、高学年が「おかあさんといっしょ」でも良いと思う。「こんなの赤ちゃんだ！」なんて言うかもしれないが、馴染みのある曲がある児童がいるのであれば、プログラムの一部分だったら我慢してもらう。

私が考えるセッションは一人が中心ではなく、周りにも他の児童がいて、できる児童、できない児童がいることを分かってもらったり、思いやったり、我慢する力を身につけてもらうのも集団セッションの醍醐味だと思っている。

今、他者との関わりを苦手とする子どもが多い。苦手でも良いと思う。でも何か困ったときに人に助けてもらって感謝できる、人の気持ちを分かってあげられる人。子どもたちには障がいの有無に関係なく、様々な経験を通して、相手を思いやれる人間になってもらいたいと思い、セッションの中に取り入れるようにしている。

（８）支援の工夫と児童の様子

授業研究会や学部研修会を受け、グループ内でさらに検討し、取り組みの継続や関わり方の工夫、楽曲等のアイデアを取り入れ、授業改善を図った。支援の工夫と児童の様子を以下に記す。

支援や場の設定の工夫	児童の様子
振り返りでは、スクリーンをタッチするだけなく、可能な児童は自分の言葉で、発語のない児童は教師が、楽しかったことや頑張ったことを発表する。【授業研究会から】	言葉で伝えられる児童は、楽しかったことを、画像や使用した教材を見て思い出し、スクリーンをタッチした後、自分の言葉で伝える姿がみられた。発語のない児童も、楽器や教材に視線を向けたり手を伸ばしたりして伝えるようとすることができた。
一つの曲にみんなで取り組んだ後は、教師が取り組みの様子をみて発表者を決め、前に出て演奏の発表する場を設ける。【研究授業アンケートから】	発表の後は、たくさん拍手をもらったり、「上手だね」と声をかけてもらったりし、笑顔になり、満足感を感じている様子だった。 友達2～3名で発表することで、友達を意識し、協力して発表する楽しさを感じている様子だった。
繰り返しや響きが楽しい言葉が使われている歌を取り上げる。【小学部音楽科から】	『バナナのおやこ』では、回数を重ねる毎に、繰り返しの部分が近づいてくると笑顔になり、その言葉が歌われると声を出して笑う児童もおり、期待感を感じている様子だった。 2組の児童は、『とんぼのめがね』や『ジングルベル』など、進んでよく歌うようになった。どれみタイムでの学習の成果もあってか、朝の会で取り組んでいる「今月の歌」も、年度初めに比べ、声を出し歌うことが増えた。
スクリーンに歌の映像を流す。【児童の実態から】	映像を流すことで、普段顔が下がることが多い児童も顔を上げて笑顔で映像を見て楽しんでいた。 曲のイメージがもて、曲の雰囲気や季節感を感じることができているようだった。
生活に身近な楽曲や楽器を使用する。【学部研修会、小学部音楽科から】	『やおやのおみせ』を取り上げ、フルーツマラカスを用意し、好きな果物や野菜を選んで友達に紹介することで、自分のことを紹介したり、友達のことを知ったりする機会となり、児童同士の関わりが生まれた。
どれみタイムで取り組んだ曲を、他の場面でも取り上げる。【授業研究会アンケートから】	授業で取り組んだクリスマスソングを、わかばのクリスマス会や学級のクリスマス制作の時間に歌うことで、クリスマスの雰囲気や期待感を感じている様子だった。
児童の実態に応じ、使用する楽器を選び、リズム打ちに取り組む。【授業研究会から】	本校舎の清明祭予行見学に行った際に中学部が発表した「清明太鼓」に興味をもつ児童がおり、わかば学級でも「わかば祝い太鼓」に新たに取り組み、卒業おめでとう会に向けて練習を進めている。鳴らしやすさや楽器の高さなど、児童の実態に応じて決めた。練習後には笑顔や拍手があふれ、一つの音楽をみんなで作り上げる楽しさを感じながら、取り組んでいる。

6　実践のまとめ

（１）成果

〇本グループにおける、「豊かな学び」の捉えについて、グループ内で共通理解を図り、そのめざす姿を意識して指導・支援に取り組むことができた。

〇他教科等との関連を図りながら進めることで、取り上げる楽曲や使用する楽器を検討する際、参考にすることができた。「呼びかけ」と「こたえ」がある曲、擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さがある曲、数字や形が登場する曲など、音楽科や算数科等他教科の内容をヒントにしながら、児童の実態に合った楽曲を選定し授業づくりをすることで、児童の主体的な姿や達成感につながった。また、関連を図ることが、自立活動のそれぞれの目標にさらに迫ることにもつながり、相互に作用し合い、プラスの効果が生まれた。

〇実態差がある集団における授業の組み立て方や、関わり方などについて、授業研究会や学部研修会を通じて多くのアドバイスをもらい、それを授業づくりや支援の際の参考にし、授業改善につなげることができた。

〇授業の振り返りの場面では、スクリーンを使い、画面をタッチする方法を継続することで、振り返りが児童にとってお楽しみの時間となり、進んで手を挙げ、発表する児童がいた。

〇なのはなグループと合同で授業研究会を行うことで、様々な視点から授業に対する意見や、題材に対するアイデアが出され、それらを授業に生かし実践し、児童の豊かな学びにつなげることができた。また、なのはなグループやあすなろ分教室の授業参観や授業研究会に参加することで、他グループの実態や学習の様子を知り、アイデアを共有することができた。

（２）課題

●どれみタイムは自立活動ではあるが、音楽的な要素が多く含まれているため、自立活動の本来の目標があいまいになってしまわないようにすることが難しかった。

●身体の動きや意思の表出が少ない児童への、教師の支援のさらなる工夫が必要である。少しの支援で、保有する感覚を最大限に引き出せるような支援を検討していきたい。

●一人一人に合った楽器の検討については、楽曲の検討ほど深めることができなかった。また、児童によってリズム打ちの難度を変える「パート分け」をするまでには至らなかった。次年度以降取り組んでいきたい。

●授業で取り組んでいることを、今以上に他の授業や普段の生活の中で生かしたり、なのはなの児童と合同で取り組んだりする場面を設定し、児童同士の関わりの広がりや、達成感につなげていきたい。

（３）終わりに

この２年間、集団学習をテーマに取り上げた。１年次目では、友だちを意識する場面を設け、継続して取り組むことで、普段の学校生活の場面で児童生徒同士の交流が生まれ、自分なりに工夫したり、進んで取り組もうとしたりする姿がみられた。また、型にはまらず、実態に合わせて柔軟で大胆なルールに変えていくことで、「またやりたい」、「次は勝ちたい」など、主体的な姿につながるという

ことも分かった。

今年度は、取り上げる楽曲や楽器を、児童の実態に合わせて選定し提示することで、児童の興味津々な姿や、「この楽器を使いたい！」という意欲的な姿、期待感につながった。どれみタイムで取り上げた曲を、昼休み時間にも好んで聴き、踊りを披露する児童もいた。

わかばの児童にとって集団学習は、友達と一緒に一喜一憂しながら自由に感情を表出し、楽しみながら学べる大事な時間である。だからこそ、その中で得た学びや経験の、生活への影響は大きいと感じる。そして、その学びや経験が生活の楽しさや豊かさによりつながっていくような支援をこれからもめざしていきたい。

参考文献

・文部科学省（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』開隆堂出版

・文部科学省（2019）『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』開隆堂出版